

## 6. メインスタジアム、周辺施設の現地視察



<メインスタジアム>

### <基本データ>

五輪開催期間中の収容可能人数は約8万人。ウェンブリー・スタジアム、トウイッケナム・スタジアムに次いで一時的に全英で3番目に大きなスタジアムであった。大会後は、2015ラグビーワールドカップと2017年の世界陸上競技選手権大会の開催予定地でもある。現在は収容人員を60,000人に縮小し、陸上トラックを残したまま、2016年よりサッカー・プレミアリーグのウェストハム・ユナイテッドのホームスタジアムとして使用される。

### 調査目的

メインスタジアムおよび周辺施設を現地で確認し、施設の活用状況、仮設席撤去後のスペース活用状況の確認を行う。また、オリンピック開催後の周辺地域の開発状況の確認を行う。

## 調査結果

クレア職員の案内の下、メインスタジアム、周辺競技会場、及び競技場周辺開発地域の現地視察を行った。競技場の周辺地域は、ロンドン市内でも開発が遅れている地域であり、オリンピックの開催をきっかけに、閉会後も都市計画が行われる予定地区である。そのためオリンピックがすでに閉会しているが、鉄道整備、道路整備、住宅整備などの工事が行われていた。鉄道整備は、オリンピックのためではなく、オリンピック後にできる施設のために行われているとのことである。大会後メインスタジアムは、サッカーチームのスタジアムとして使用できるよう、改良工事が行われており、正にオリンピック後の将来に向けてのレガシーづくりが活発に行われていた。オリンピック開催前から閉会後の施設活用や周辺地域の整備計画などレガシーを残す目標が明確であったことが、ロンドン大会は成功した、との評価につながったと現場で改めて確認できた。



<メインスタジアムの説明を受ける①>



<メインスタジアムの説明を受ける②>

メインスタジアムに隣接する地区にも他の競技会場が設置されており、その中のカッパー・ボックスを視察した。



<カッパー・ボックス>

カッパー・ボックスは、ハンドボール、近代五種のフェンシングが行われた競技場である。稼働式スタンドで、大会中は7,000席の座席が用意されたが、大会後の需要を見込んで、過剰分は仮設の座席とし、現在は取り除かれている。現在そのスペースでは、トレーニングジムが設置されており、有効に空きスペースが活用されていた。また、座席の色がランダムに塗



<カッパー・ボックスで説明を聞く>



<オリンピック入場券>

られており、観客が少なくても目立たないような工夫がされていた。

現地通訳の方が、オリンピックのいくつかの競技を見に行かれたとのことで、実際のチケットを見せていただいた。東京オリンピックでは、入場券販売、テロ対策、交通規制等々まだまだいくつかの課題がある。

それら課題をひとつひとつ解決し、処理していき、確実に成功に結び付けていかななくてはならない。